

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	名札に書かれている法人理念、コンセプトを常に確認しながら、また毎月開催している会議等で、施設目標を再確認し職員全員が共有している。法人理念、施設目標は毎日朝礼にて全員で唱和し確認するとともに意識して取り組むようにしている。	法人の理念「共に歩む」の下、職員全員でホーム独自の「利用者様の笑顔と安心した生活」・「職員の笑顔と言葉かけ」を主旨としたホーム独自の目標を作り上げた。朝礼時に理念と目標を唱和し、意識づけをおこない業務に取り組んでいる。理念と目標は玄関に掲げ、ファイルにして置いてあり誰でも見れるようになっている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にボランティアの来訪がある。今後はもっと交流を広げていきたいと思っている。また、施設周辺の散歩をすることで、まず私たちを知っていただく事、そして少しずつ馴染みの関係が作れるよう努めている。	近くの保育園の園児が交代で月に2回来訪し利用者とふれあい、和やかな時を過ごしている。今後は小学校との交流も視野に交渉予定である。区への加入に関しては運営推進会議で区長に相談している。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に貢献出来るよう地域活動などへの参加も機会があればぜひ参加していきたい。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での取り組みなど報告し、意見交換を行なっている。その時に出た意見や質問などは会議内で回答、話し合いをし、その内容は会議議事録で周知し今後のサービス向上に活かしている。	3ヶ月毎、年4回開催している。家族、区長、民生委員、広域連合及び町役場職員、介護相談員が参加している。区の方から質問や地域とのつながり等の意見が活発に出され運営に取り入れている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、介護認定調査等の機会に、町の職員の方と連携をとり情報交換等行なっている。地域の居宅介護事業所との情報交換なども必要時行なっている。	運営に関する相談を地域包括支援センターにしている。情報提供も相互で活発に行っている。広域連合で行っている事業者会議や研修にも参加している。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については法人の考えを伝え、禁止行為、理由について会議で話し合いをしている。しかし、自由に外に出られる環境の大切さは理解はしているが、ご利用者の安全確保を第一に考えると現在、玄関の施錠は必要と考える。そこは、ご家族にも了解を得ている。出来るだけ施錠しないケアについても今後検討し考えていければと思う。	身体拘束についての学習会を年1~2回開催している。常に拘束と自由、安全について考えるように取り組んでいる。利用間もない男性利用者が窓から無断で出てしまった例があり、安全を優先して玄関や窓の施錠をしているが、外出傾向の強い方には一緒に散歩をし気分転換を図っている。	

グループホーム縁

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7				○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常、又は会議等で話し合い理解を深めている。御利用者様は、人生の大先輩であることを意識し、日常での態度、言葉かけやケアが適切に行なわれているか常に確認し改善している。		
8				○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加や、成人後見制度や日常生活自立支援事業については少しずつ学ぶ機会を持ち全職員で考えていく環境を作っている。		
9				○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明を行ない、ご家族の不安な点や疑問点など確認し答えながら同意を得ている。また、不明な点等は常に問い合わせをして頂き、納得できるまでお話ししている。		
10	(6)			○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常にご利用者の意見に耳を傾けるよう努めています。又、ご家族とは遠慮なく話せる環境づくりに努めています。ご家族の面会時には最近の状況報告をし、ご家族の意見や要望にもしっかり耳を傾けています。運営推進会議でも自由に発言頂き運営に活かしています。	半数以上の方は自分の意見を言葉で伝えられる。困難な方には答え易い問いかけをしたり、表情や仕草で判断している。家族からは面会時に直接お話しを伺い、気づきや意見を運営に生かしている。家族会を年2回行事に合わせて開催し、7割以上の方の参加を得ている。その折にも活発に意見交換がされている。	
11	(7)			○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で意見交換をし、そこで出た意見や提案、問題点を明確にし、全員で話し合い運営に反映させています。	毎月第2金曜日の19時～20時、職員全体会議を行い、その後1～2時間フロア会議を開催している。気づきや課題に関して活発に意見交換がされている。年2回目標シートの提出があり、それに合わせて管理者の面談を実施している。	
12				○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標を作成してもらい、毎月自己評価を行なってもらっている。適時、確認、面談を行ないながら自己評価を見てのアドバイスや本人から不安等を聞きながら、やりがいを持って働けるよう、また、向上心につながるように努めています。		
13				○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議で勉強したり、法人内外の研修に参加できるような体制を取っている。又、介護雇用プログラムを利用し勤務しながら資格を取得する制度の活用もしている。		

グループホーム縁

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月のグループホーム会議で他施設と情報交換をしている。毎回議題を上げ検討を行ない常に質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み前にご家族だけではなく、ご本人にも来所して頂き、施設内を見たり、ご本人の困りごとや思い等お聞きしている。事前面談では、身体面、生活面、希望など情報収集を出来るだけ行ない入居後本人の思いを受け止めケアに活かせるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時、契約前に施設内外を見て頂くと共に、ご家族の様々な思いに共感している。また入居前、入居後の不安や要望などに耳を傾け信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ずご本人とご家族の思いや考えを聞き、必要としている支援、必要であろう支援を見極めるように努めている。当施設ではどのような支援やサービスが行なえるのかを常に考え対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線に立ち、共に喜びや悲しみ楽しみを共感するようにしている。共に出来ることを見つけ、同じ立場で行うように努めている。そして、出来る限りそばに寄り添い話をしたり、思いを共感しながら良い関係作りが保てるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活の様子、身体の状態を毎月担当者が記入しお便りにて報告すると共に、ご家族の面会時にもお伝えしている。また、施設での行事に来て頂きご家族と共に過ごす時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊の制限はない為、いつでも誰でも馴染みのある方が来てふれ合って頂ける様にしている。また馴染みの方が遠慮せずに来れるような雰囲気作りにも努めている。	知人や友人の来訪がある。日時の経過と共に来訪者が誰だか分らなくなる方もいる。家人や姉妹に手紙を書く方もおられる。馴染みの理美容院へ家族と出かける方もいる。できるだけ馴染みの関係が継続するように支援している。	

グループホーム縁

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話やコミュニケーションの時間を大切にしている。またその環境作りに努めたり、たくさんのご利用者に関わりが持てるような声かけや機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今までの生活環境が維持できるように、また支援が継続出来るよう、他事業所へ情報を提供したり、ご家族の相談等にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、表情や態度、行動などからご利用者の思いを汲み取るようにしている。自分からの訴えが少ない方や、上手く伝える事が出来ない方は、ご家族にも相談したり、情報を得ながらスタッフでカンファレンスをし検討を行なっている。	半数以上の方は自分の思いを言葉で伝えられる。困難な方には表情やしぐさで判断し、思いを汲み取るように心掛けている。食べたいものを確認したり、家に帰りたい等の訴えに十分耳を傾け、一緒に散歩をし気分転換を図るように努めている。集団の中では言えなくても、直接リーダーに話す利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴や馴染みの暮らし方生活環境など聞いて情報を共有していくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズム、過ごし方を把握すると共に、出来る事や好きな事等ミーティングで共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の考えや要望、意見を関わりの中でお聞きしたり、ご家族が面会に来られた際、本人の意向などお伝えし、ご家族の考えや思いなども含め相談しながらケアに反映させるよう介護計画を作成している。	担当制をとっており、職員は1~2名の利用者を受け持っている。介護計画の立案は職場会議で情報交換し、ケアマネージャーと計画作成担当者が中心になって作成している。モニタリングは職場会議の後で実施することが多い。評価は3~4ヶ月毎、変化が見られた時はその都度対応している。家族の意見も頂き、計画作成後に説明し了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に身体情報、その日にあつた事、本人が訴えた事、言った事をそのまま記入し、業務開始前に業務日誌と個人記録を確認するのはもちろんの事、大事な事は申し送りをするようにしている。また記録をもとに評価し介護計画の見直しを行なっている。		

グループホーム縁

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のご希望は出来る限りその時に行えるように努めている。またその時々生まれるニーズに対しても対応出来るような体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の職員、包括支援センター、民生委員、介護相談員の方々と運営推進会議等で情報交換を行ない、施設への理解や協力を頂いている。又、ボランティアの方、訪問理容にも定期的に来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族が希望するかかりつけ医となっている。定期受診はご家族対応であるが、緊急時は職員が付き添い受診する柔軟な対応を取っている。施設での状況など主治医に情報提供し、常に連携を取っている。	利用前からのかかりつけ医を継続している方は2名で、他の方は協力病院の医師をかかりつけ医としている。通院介助は原則として家族が行っている。協力病院に入院し退院した方については協力病院の医師に往診をしていただいている。看護師が常駐しており24時間対応で、医療連携を取りやすい体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師が2名居るので、何かあればすぐ対応出来るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず看護師が付き添い、情報提供をしている。入院中は、ご本人の様子を見に伺い、ご家族、医療機関との連絡を取り合いながら、回復状況を確認し、早期退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望を聞き、かかりつけ医と相談を十分に行いながら方針を決めたいと思っている。又、重度化した場合における指針は、ご家族にきちんと説明し同意を文書にて頂いている。	重要事項説明書に「重度化した場合における対応に係る指針」が明記されており、契約時に本人・家族の希望を伺っている。看護師と24時間連絡の取れる体制を作っており、「住み慣れた所で最後まで」と看取りの心づもりをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人での研修に参加したり、施設にある緊急時マニュアルを周知するよう会議等で説明している。また実際起きてしまったインシデントやアクシデントをもとに会議で話し合い、同じ事が起きないよう全職員が勉強している。		

グループホーム縁

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、ミニ防災訓練を実施し、6月、11月のご利用者も一緒に総合防災訓練を行い、消防署の指導も受けている。通報訓練や消火器の取り扱い方法等も消防署職員や法人の危機管理者から指導を受け全職員が行なえる体制を取っている。	消防署立会の下、6月と11月に利用者の方も参加し総合防災訓練を実施した。夜間を想定した訓練では職員の夜間体制を基本に午睡時間を利用し、利用者を避難させるというシミュレーションを3～4ヶ月にわたり繰り返し実施した。全員避難させるには時間がかかり相当困難を要することが分かった。今後更に工夫を重ね、効率良く、安全な方法で避難できるよう対策を講じる予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の気持ちを大切に気分を害す事のない様な声掛けや言葉使いをするよう常に心掛けている。またプライバシーが守られ個人を尊重する対応が出来るようにしている。	本人が聞きなれている姓や名前に「さん」づけで呼んでいる。先輩である利用者を尊重し大切にした対応や言葉使いを心掛けている。幼児扱いや「ちょっと待って」等の対応は厳に慎むよう気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自己決定出来るような、分かり易く、選択しやすいような言葉掛けを行なうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時にやりたい事が出来るような体制を取っている。ご利用者の気持ちを大切に、その方のペースで日々過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時できる限りご自分で選んで着れるような言葉掛けをしている。訪問理容を活用しご自分の好きな髪形にカットして頂いたり、イベントなどの時は化粧やマニキュアなどしておしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられるメニューを考えたり、ご利用者の希望を聞きながらメニューを考えている。食事作りから片付けまで決して強制することなくご利用者本人が行いたい時に一緒に行なっている。食事中は音楽を流し職員とご利用者が同じテーブルで会話を楽しみながらゆったりとした時間の中で楽しく食事が出来るようにしている。	全員の方が自力で普通食を召し上がっている。献立は食事当番を決めてあり、その職員が利用者の希望を聞いたり、使える食材を確認しながらその都度立てている。利用者は配膳の準備、テーブル拭き等を手伝っている。職員も一緒にテーブルで和やかに語り合いながら、同じ食事を摂っている。品数も多く、彩よく盛りつけられ、食欲をそそる内容である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに気をつけたり、個別の嗜好にも気を配りながら偏りのないメニューを考えている。食事量は毎食確認し把握出来ている。一日の水分量もしっかり確保出来るようこまめに提供している。		

グループホーム縁

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員が口腔ケアを行っている。義歯の方は定期的に洗浄剤を使用したり、一人一人に必要な介助を行ない、常に口腔内の清潔が保てるように努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄の状況を常に把握している。一人一人排泄パターンも違い、排泄用品もご利用者ご様々なので、その時の時間やタイミングを見ながらその時に必要な援助をしている。出来る限り、自立にむけた支援を行ないながら、オムツはずし等の自立支援にも取り組んでいる。	自立の方5名、全介助の方4名、他の方も声かけ等何らかの介助を必要としている。排泄チェック表を用いて個々に支援を行っているが、食事前とおやつ後、また定時に声かけをしている。人前で失敗した時は他者の目にふれない所に対応している。出来るだけ布の下着を使用出来るように支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表や腹部状態、食事摂取状況など確認しながら便秘にならないような取り組みを行ない、自然排便が出来るよう努めている。しかしそれだけでは無理な方には医師と相談し下剤でのコントロールを行ない便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の日時は決まっているが、本人の状態や希望に合わせて入浴をしている。入浴剤をご利用者に選んで頂き、色や匂いなどでも入浴を楽しんで頂ける様な配慮をしている。	5名の方が自力で入浴できる。全介助の方は4名である。入浴は毎日可能で希望に沿うようにしている。拒否される方には対応職員を交代したり、翌日に延期したり、また、気に入った入浴剤を選んでいただき入浴の気持ちにしたりと工夫をし、少なくとも週2日は入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の希望時間に入眠出来るよう就寝時間は決めていない。日中も好きな時に好きな場所で休息が取れるようにしている。眠れない方は眠くなるまで一緒にお話ししたり、温かいお茶を飲んだり、足浴などをして安眠出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどんな薬を服用しているか、用法、効能が一目で分かるように一覧にしている。薬の副作用もファイルを見れば分かるようになっている。薬の変更や追加などある時は、申し送りノートに記載し全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人役割が持てるように支援している。出来る事、希望する事は行なってもらい生活に張り合いが持てるようにしている。また季節の行事や外出等で気分転換が図れるよう支援している。		

グループホーム縁

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、散歩やドライブに出掛けその時々季節感を感じて頂けるよう努めている。ご本人のしたい事のご希望があれば希望に添えるように努め、ご家族の協力が必要な時はお話をしてお話をして実現できるよう支援している。	日中はホームの周囲を散歩し、諏訪湖が見える所まで行き戻ってくる。週に1回買い物に出かける時は必ず利用者1人と同行している。年間計画を立案し、桜やつつじ、藤の見物、イチゴ狩り、ブドウ狩り、紅葉狩り、諏訪湖畔へ白鳥を見に行く等、四季折々に楽しんでいる。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望しご家族が理解していれば、少額所持している方もいる。ご家族より小口現金をお預かりしているため、買い物へ出掛けた際、ご利用者が購入したいとの希望があればそこからお金を出しご自分で購入で出来るようになっている。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ常に行なっている。				
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生け花のボランティアにより、玄関には常に季節の花を飾り、また季節の物を飾ったりしながら四季を感じて頂けるようにしている。ご利用者の方に花瓶に花を飾って頂きホールに飾ったりもしている。不快を感じさせず居心地の良い場所となるように配慮している。	共用スペースのリビングは南向きで日当たりが良く明るい。廊下も広く全体にゆったりとしている。壁に利用者の作品、絵や書、折り紙や外出した時の集合写真が飾られている。玄関にはひな壇が飾られていて、ボランティアの方が活けてくれた桃の花と共に季節感にあふれていた。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者それぞれの居場所があり、その場所で気の合った方と話をしたり、テレビを観たりしてくつろいで過ごせるようにしている。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の好きな空間であるように、使っていた家具や家族との写真など好きなものを持ち込んで頂き、以前と変わらない環境の中で過ごせるように努めている。	居室には馴染みの家具や調度品が持ち込まれ、本人好みの仕様になっていた。手作りの作品や誕生日の色紙、家族の写真が飾られていた。掃除も行き届き清潔に保たれている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事、分かる事を把握すると共に、それらを継続して行なっていけるよう安全に配慮しながら、自立した生活が送れるように努めている。				